

浄土真宗本弘寺婦人会だより

平成25年3月

第35号

お寺は何のためにあるのですか？

お寺はお葬式やご法事を行うだけの場所でしょうか？

お墓や納骨堂でお骨を預かっているだけの場所でしょうか？

お寺は、今生かされている私のためにあるのです。本来お寺は、仏さまの教えを伝道する場。教えを聞き、教えを喜び、生きる指針とし、私たちが明るく楽しく集う場所なのです。決して生真面目で、敷居が高く、肩が凝る場所ではありません。本音で人生の悩みや愚痴を話せる場所。そして仏法に出逢い、自分の心を見つめ自分の本質に気付かせていただける場所。それがお寺です。

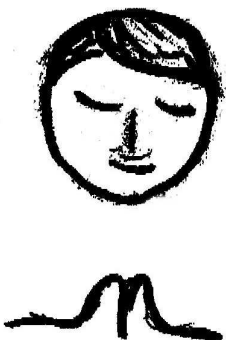
お寺さんにお話を聞きに行きませんか？とお誘いしても敬遠されてしまいます。エリートと呼ばれる人ほど、お寺で坊主の話など聞けるかと思われるかもしれません。地位や名誉、さらにお金を求める人は「抽象的なきれいな事を聞いても、自分の実生活には何の役にも立たない。」と思われるかもしれません。若い人は、お寺の法座は年寄りの行くところで、若い自分たちには関係ないと思われるかもしれません。自分の思い込みやイメージだけで敬遠しないで、まずお寺に足を運んでみてください。

「1度行ったけど楽しくなかった。」「1度聞いたけど話が分からなかった。」と敬遠しないで、2度3度と繰り返し聞いてみてください。きっと貴方の心に仏の願いが届きます。

是非感動を味わえるまで聞いて欲しいです。

合掌

婦人会会員 M. K



「宗歌会歌の合唱が さやかに響く 午後の庫裡」

「定例会 同行と逢いての語らいは 何にも増して楽しからずや」

「黒髪と 瞳かがやく十和子さま 二葉のうちより香しき」

「先人の 還り給いしお浄土は 楽しい園と想い巡らす」

高井キク

婦人会の一員になりました

婦人会に入りませんかの呼びかけに迷いに迷っている中、御本山での親鸞聖人七百五十回御遠忌法要？50年に1度？何も知らない私は、迷いながら参加させていただきました。まさに驚きと感動。もしかしてお浄土？私にとって別世界を見、味わわせていただきましたことに感謝でいっぱいでした。

本弘寺での御遠忌法要では青木新門様、100才を迎えられた日野原重明先生の講演には元気と感動をいただき、このような素晴らしい出会いがあったにもかかわらず婦人会の入会をためらいつつ「婦人会だより」に目を通しておりましたら相田みつをさんの「そのうち」という詩が載っているのに目がとまり、よくよく味わっていくうちに、今来たこの道帰れない。「そのうち」「そのうち」日が暮れるこれで良いのかと思っただけで胸がキュンと熱くなりしばしキューーーンとなりました。



また婦人会も30年の歴史があることも驚きでした。私の心は定まり入会させていただきました。これからの人生、お浄土に迎えとっていただけるその時までよろしく願いいたします。合掌

仲島千恵子

花まつりと初参式しよさんしきのお知らせ

お釈迦様は今から約2500年前の4月8日、カピラ国の王子様として、ルンビニー園（現ネパール）でお生まれになりました。地位も名誉も権力も富もすべて約束され、成人したのちは一国の王様となれる何不自由の無いお立場でしたが、ご幼少の頃より生老病死という決して捨て去れない人生の苦しみに心を悩まされ、その悩み苦しみを根本から解決されるために29才にしてすべてを捨てて出家し修行に励まれました。そして35才の時に菩提樹の木の下で悟りをひらかれ世の真理を明らかにしてくださったのです。お釈迦様が仏教を弘めてくださらなければ、私たちは永遠に無明むみょうという悩み苦しみの絶えない生き方をしていたことでしょう。

当寺ではお釈迦様がこの世にお生まれになってくださり、私たちが救われていく真理の道ほうおうでんを説いてくださったことを喜び、毎年4月8日午後1時より鳳凰殿にて花まつりをお勤めさせていただいております。お釈迦様が生まれになった時のお姿を表した誕生仏に甘茶をおかけさせていただいたり、ご法話を聞かせていただいたり、また婦人会会員の娘さんと金子朋沐枝さんとお仲間によります邦楽演奏会も好評をいただいております。

また、今年よりお釈迦様のお誕生されたこの日に、皆様の大切なお子様が、尊いご縁によってお生まれくださったことを、お釈迦様や阿弥陀様の御前にてご家族やご親戚の皆様と一緒に感謝しお祝いさせていただく法要として合同初参式を併せて勤めさせていただくこととなりました。お子様の年齢は問いません。お生まれになって初めての大切なお参りでございますので皆様の大切なお子様と皆様のご参詣お待ちしております。お問い合わせ、お申し込みはお寺までご連絡ください。合掌

